

# 子どもコース ニュース



第8号

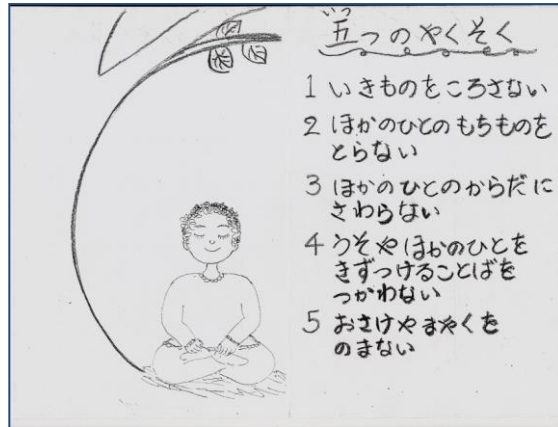
日本ヴィパッサナー瞑想センター：京都府船井京丹波町八田岩上奥 電話:0771-86-0765

日本ヴィパッサナー協会

2010年1月発行

## 小さなブツダのような

### 子どもたち



2008年11月3日、京都のめいそうセンター「ダンマバーヌ」で、8回目の子どもコースがおこなわれました。今回参加したのは、8歳から12歳までの、女の子3人と男の子1人のあわせて4人。2007年8月、新潟県の「妙高青少年自然の家」をお借りして子どもコースが行われたとき、山形県からはじめて参加した女の子が、今回は古い生徒

として、お母さんと一緒に、飛行機で前日入りしての参加でした。当日、向っている電車の中で、お腹が痛くなつて参加できなくなつた男の子がいました。残念でした。

コース前日の世話役の打合せの最中に、何年ぶりにセンターを訪れた古い生徒さんがいらつしやいました。お子さんとおばあちゃんの3人でした。ちょうど、お茶タイムに入るところでしたので、ごいっしよしていただきました。

女の子は、はじめは、はずかしがつてお母さんのかげにかくれていましたが、世話役のお姉さんやお兄さんが話しかけたりするうちに、いっしよに遊びだし、すっかりセンターが気に入つた様子。お姉さんの「明日の子どもコースにも、よかつたらきてね！」との言葉に、「うん！」と笑顔でこたえます。そして、翌日の子どもコースには、ほんとうに参加。初めて参加の子どもたちは少し、緊張していましたが、先生のやさし

い言葉に、背すじをのぼし、しっかりとすわりまします。古い生徒のAちゃんはとても集中しているようでしたが、終了後、本人もいわく、「すぐく集中できた！」。しんけんにする子どもたちは、まるで小さなブツダのようでした。



お話タイムは「ハトとアリ」のお芝居形式でのお話。短い時間の中で、なんどもリハーサルや打合せをしたことがあって、大成功。熱演のお兄さん、お姉さんのお芝居をみた子どもたちが、「私もやりたい」、「僕もやってみよう」と言い出すほど。

世話役のお姉さんが「コースが終わったら、お母さんたちの前でやってみようね」と说得。うなずく子どもたちに、お姉さんもホッと一息。お茶タイムのあと、リハーサルなしで、劇を披露した子どもたちには、世話役も父母のみなさんも、びつくり！すばらしい集中力でした。



創作タイムでは、落ち葉をひろってマイバックを作成。創作意欲があつて、庭で落ち葉をひろいながら、構想をねっていた子どもたち。世界にたった一つの個性あるマイバックができました。



当日、参加できなくなったり、飛び入りのお子さんがいらしたりの「子どもコース」でしたが、しんけんで印象に残るコースでした。

コース終了後の夜、子どもの日記を読んだ。感動したおかあさまから、メールがとどきました。日記帳いっぱいには、コース体験とめいそうのポイントがこまかく、めいかくに書かれています。さいごには、「こころがすがすがしくなりました」とも書かれていたそうです。

